

位置と環境

遺跡は垂水市街地から国道220号を南へ約8 km行った、垂水市新城の鹿児島湾に面した標高約7～10 mの海岸段丘上に立地する。旧国鉄大隅線新城駅跡も遺跡の中にあり、現在は新城鉄道記念公園となっている。現況は水田で、調査前は小区画の棚田が多く見られた。

調査の経緯

本遺跡は県営土地利用秩序形成ほ場整備事業（新城地区）に伴い、平成3年に県教育委員会によって分布調査により発見された。その結果、平成5年には垂水市教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て確認調査を実施し、縄文時代後期から中世にかけての遺跡であることが判明した。その後、平成6年には市営住宅建設事業に伴う発掘調査が実施され、同年の平成6年4～5月、10～12月の2回に分けて、ほ場整備事業に伴う本調査を行った。

遺構と遺物

本遺跡は縄文時代後期から中世にわたる複合遺跡で、時期ごとに出土範囲が異なっていた。

＜縄文時代後期＞ 遺跡の南側にあたる、市営住宅の付近では西平式土器を伴う土坑が検出された。また、三万田式土器がまとまった状態で出土している。＜縄文時代晩期～弥生時代初頭＞集中範囲がやや北側の旧新城駅付近を中心に、黒川式土器や北部九州の夜臼式土器並行の刻目突帯文土器などが比較的多量に出土している。いわゆる組織痕土器もみられ、平織りのものもある。

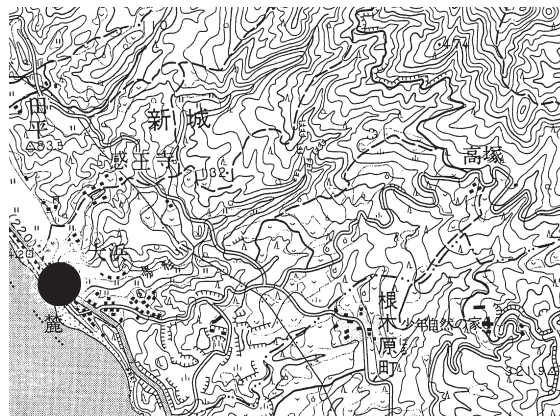
なお、縄文時代の打製石斧、磨石・敲石、石皿などの石器が出土した。

＜弥生時代中期＞竪穴住居跡1軒が検出されている。

＜古墳時代＞水田の基盤と考えられる遺構が検出された。

＜古代＞溝の埋土内には、開聞岳噴出物「紫ゴラ」が埋まった状態で検出された。

＜中世＞遺跡の西側、海岸寄りの地点で掘立柱建物跡1棟、住宅建設地では方形竪穴遺構が1基やピッ



第1図 宮下遺跡の位置

トが多数検出された。

特徴

＜三万田式土器が多量に出土＞

三万田式土器は熊本県泗水町三万田遺跡出土の土器を標識とする九州地方の縄文時代後期の代表的な土器であるが、これまで本県では出土例が希少な土器であった。本遺跡の出土のものは、深鉢で、口縁部が波状のものと平坦なものがあり、胴部との境目で屈曲して胴部は球形を呈し、やや上げ底となる器形である。ヘラで全面磨き無文である。

＜特徴的な刻目突帯文土器＞

刻目突帯文土器の中で、口縁部突帯と胴部突帯の間に沈線や突帯で鋸歯文を描くものや、孔列文を有するものがあり、地域色を示していると考えられる。

＜古墳時代の水田跡＞

古墳時代の包含層下にわずかに残ったグライ土壌を除いたところ、水田の基盤と考えられる階段状の遺構が確認でき、併せて溝や水落しの際できたと考えられる土坑が検出された。上面のグライ土壌から稲のプラントオパールは微量しか検出されなかったため、慎重に扱うべきであるが、水田跡とみてよいと考える。

資料の所在

出土遺物は、垂水市教育委員会に収蔵・保管されている。

参考文献

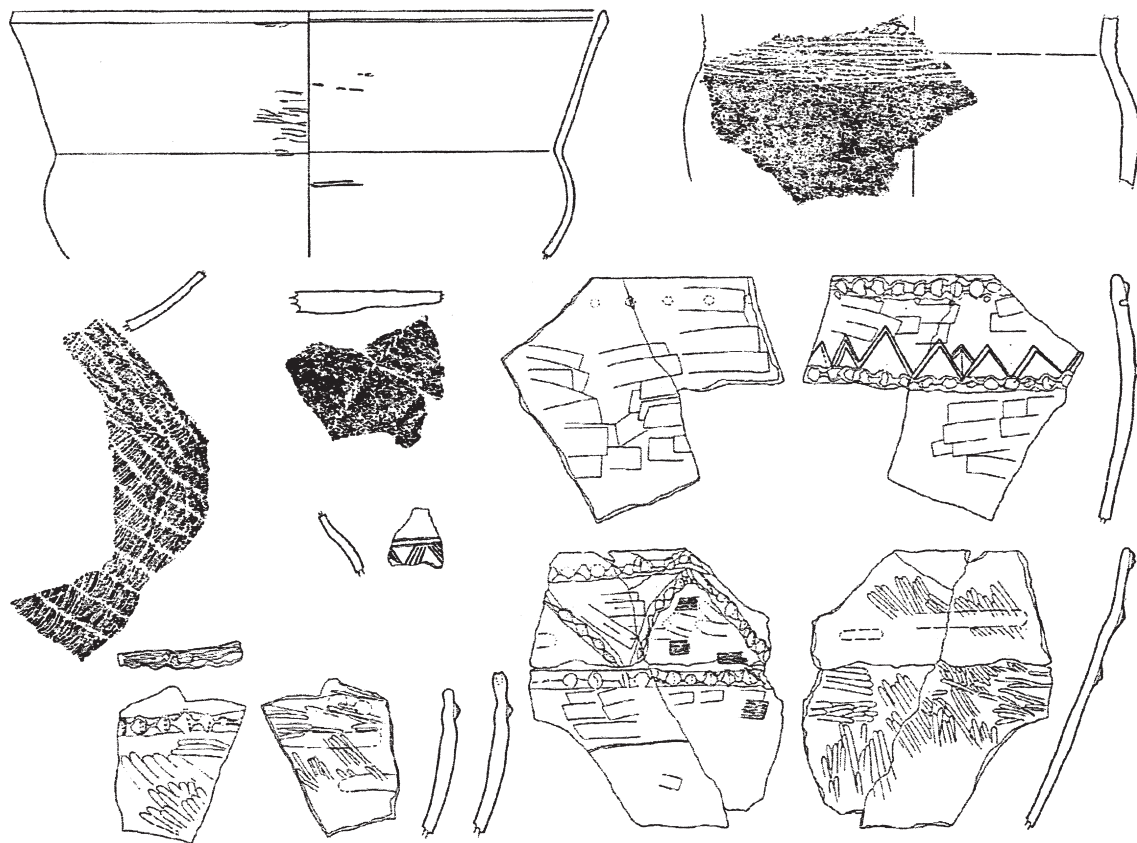
垂水市2001「宮下遺跡・小房迫前遺跡（感王寺口遺跡・中牟田遺跡）」『垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書』5
(中村和美)



写真1 竪穴住居跡（弥生時代中期）



写真2 水田跡（古墳時代）



第2図 宮下遺跡出土遺物実測図（S=1/4）